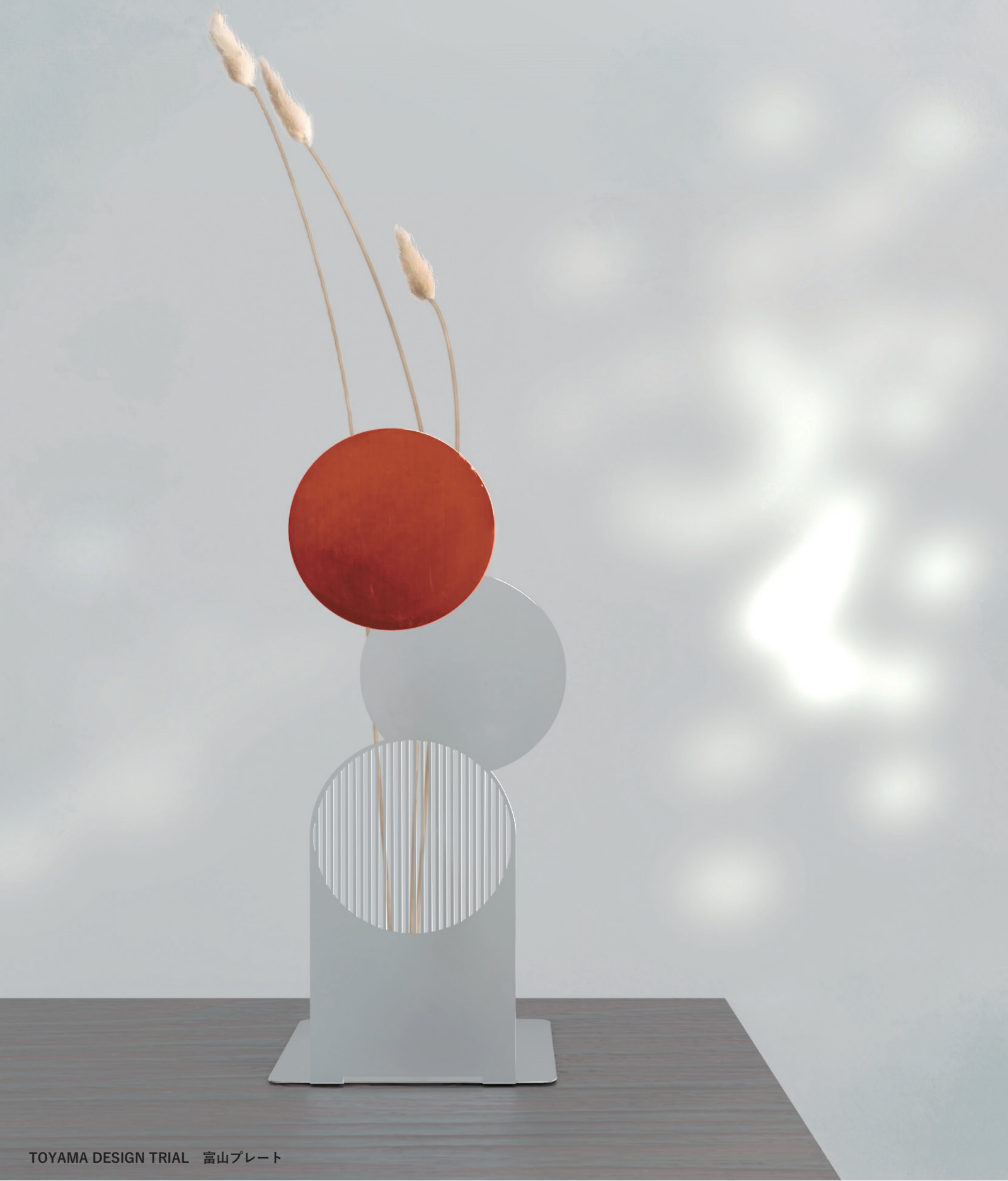


富山プレートの技術を生かした 一輪挿しの提案



富山プレートの持つ様々な技術

ステンレスにレーザーを照射し、酸化皮膜を形成し
素材の色を着色せずに変化させる技術や、
0.01mm の精度で金属を切断できる技術など、
特殊な機械を徹底的に使用する事で実現できる
高い精度や技術を持つ事が富山プレートにお伺いして分かった。

技術的課題

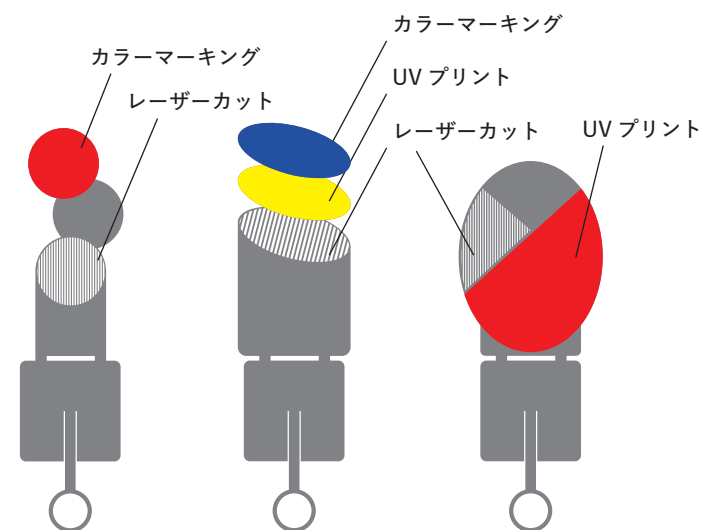
このカラスステンレスの技術に興味を持ち、実験を進めたが、
レーザーを照射する段階で金属板が熱を持ち、反ってしまう事
で焦点距離が変わり色の精度を出しにくい事や日々の湿度や気温
条件により微妙に色味が変わってしまう事から工業製品や銘板に
使用する事がなかなか難しい事などが分かった。

課題の転用

レーザーを照射する面積をなるべく小さくし金属の反りを抑える
ことで、カラスステンレスの技術を製品に取り入れ、微妙な色ブレ
の課題や生産体制は、一点ものとしての魅力や価値と捉え直すこと
ができると考えた。

製品のポイント

この一輪挿しはユーザーが自ら曲げる事で完成する。
最後にユーザーの手によって完成することで物への
愛着を増幅させる事や、富山プレートの技術に触れる事が
できる。
製品にはカラスステンレス、レーザーカット、また
UV プリントなど様々な技術を使い、富山プレートの一種の
技術見本としても活用できるのではないかと考えた。



木目の印刷の実験
かなりの板厚があるも、青色から金色へ板が
反って色が変わってしまった（左側）

